第58回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

決勝戦 第3試合
岐阜聖徳大学 0 0 0 2 1 0 1 4
環太平洋大学 0 0 0 1 0 3 2× 5
岐:山本－淀川
環:景山－岩松
本塁打:梅田（岐）
三塁打:山本、安達（岐）

戦評・得点経
3回まで両チーム無得点で迎えた4回表、岐阜聖徳大学2番にレフト前ヒットを許し無死1塁。
1死後、追い風もあったが4番梅田に甘く入ったライズボールをレフトスタンドに運ばれ0－2。その裏IPUは2番安藝、3番岩松、4番植田の3連打で無死満塁のチャンス。
6番大城はきっちりとセンターに犠牲フライを打ち1－2と1点差。
7番大西は四球を選び1死満塁。ここで代打攻勢を掛けるが福島、岡田と連続三振で倒れて1-2と好機を逃す。
5回表の岐阜聖徳大学の8番山本にライトオーバーのスリーベースヒットを許し、9番に3－2と追い込みながらもセンター前にタイムリーを打たれて1－3と再び2点差とされる。
IPUの6回裏の攻撃、5番植田、6番大城、7番大西と粘って三者連続の四球を奪い2回以来の無死満塁のチャンス。
8番再出場の有村が初球をライトへの犠牲フライで2－3。
続く代打9番和田のセカンドゴロをセカンドがエラーをして再び満塁に。
1番の帰り奥間が粘って押し出しの四球を奪い3－3の同点に追いつく。
2番高草が三振で2死満塁。
続く3番安藝にはストライクが入らずストレートの押し出し四球で4－3と逆転に成功。
なおも2死満塁だったが岩松がレフトフライに打ち取られ4－3と1点リードで最終回を迎える。
7回表1死から9番にセンター前ヒットを打たれ1死1塁。
1番は内野ゴロに打ち取りランナーが入れ替わり2死1塁。
2番安達に1－2からまさかのレフトオーバーの同点タイムリーを打たれて4－4。
7回裏のIPUの攻撃は、5番植田がストレートの四球で出塁。
6番大城も四球で無死1.2塁。岐阜聖徳大学はここで山本を諦め梅田にスイッチ。
7番大西はこの試合4打席連続の四球を選んで無死満塁となり、この試合三度の満塁のチャンス。

8 番有村は 1－1 からセンター前に痛烈なタイムリーヒットを放ち三塁ランナーの植田がホームを踏んで、5－3 サヨナラゲームとなり 2 年連続 4 回目の全国制覇を達成した。
一人ひとりが打席で粘りを見せてランナーは貯まるもののタイムリーが打てなくて先発の景山を援護出来ませんでした。
4 打席連続四球の 7 番大西、3 四球を選んだ 6 番大城、タイムリーと 2 四球を選んだ 5 番植田が、チャンスメイクをしてあと 1 本ヒットが出れば大量特点に繋がったかも知れない展開でした、要所を粘り強く投球した岐阜聖徳大学の山本投手、最後は力尽きましたが良かったと思います。
先発の景山は 5 連投で最終日の準決勝タイブレーク（104 球・毎回の 14 奪三振）決勝戦（122 球・毎回の 10 奪三振）を 1 人で投げ抜き最優秀選手賞に選ばれました。
景山は普段の練習から高い意識を持って黙々とダッシュを繰り返し、笑顔で強化に取り組み全試合先発志願をしてチームを背中で鼓舞してくれました。

今回はスタッフとして監督西村、コーチ平本、宮崎、主務芥川、岡田のフルメンバーでチームをサポート出来ました。

今後については、3 連覇は目標となりますが、チームを引っ張って来たレギュラーメンバーの多くが 4 年生と言うこともあり、試合経験の少ない後輩を今後しっかり鍛えて、また次年度の新メンバーの加入も視野に入れ精進していきたいと思います。

4 年生諸君おつかれさまでした、そしておめでとうございます。

ご父兄の方々も遠方より応援に駆けつけて頂き本当にありがとうございました。
大会関係者の方々も暑い中お世話になりました。